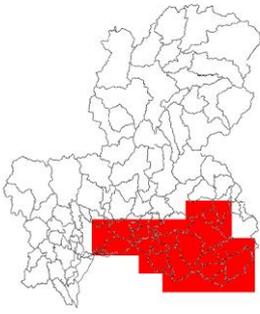


イヌタヌキモ	<i>Utricularia australis</i> R.Br.	絶滅危惧 I 類
(環境省:準絶滅危惧)		タヌキモ科
選定理由	生育地が極度に限定されているうえ、個体数が減少している。	写真(奥田浩之(茎葉)・山崎玲子(花))
形態の特徴	茎は長さ1mほどにまでなるが細くて直径0.3-2mm。葉は基部で2叉に分岐し、更に数回分岐して扇状に広がった小枝のような形になり、長さ1.5-4.5cm。捕虫囊がある。花茎は長さ3-5cm、先に数個の花をつける。花冠は黄色。	
生態的特徴	湖沼、溜池、水田などに生育し、浮遊する。花期は7-9月。	
分布状況	ユーラシア、アフリカ、オーストラリアの分布し、日本では全国にある。岐阜県では県北と県南の東部と中部で知られている。	
減少要因	開発による湿地、湖沼、溜池の埋め立てと水質の悪化。	
保全対策	生育する湖沼や湿溜池の保全、及び水質の改善。	
特記事項		
参考文献		

文責:高橋弘